こどもすこやか育みプラン・とよなか 令和5年度(2023年度)事業実施報告書に関する 意見募集の概要

豊中市子ども健やか育み条例に基づき、第2期豊中市子育て・子育て支援行動計画「こどもすこやか育みプラン・とよなか」の進行管理の一環として、令和5年度(2023年度)事業実施報告書を令和6年(2024年)10月に発行し、これに対する市民意見を募集しました。

1. 意見公募期間 令和6年(2024年)10月1日から11月15日まで
2. 意見募集の方法 市ホームページや市役所等に報告書と意見提出用紙を掲載・配架
3. 意見提出者数 2人(提出件数 5件)

こどもすこやか育みプラン・とよなか令和5年度（2023年度）事業実施報告書
市民意見及び市の考え方

V. 施策の柱ごとの事業実施状況

【市民意見①】

●子育て・子育て支援の担い手について

子ども政策全般において、地域のボランティアや学校の教職員の果たす役割は非常に大きいと考えています。そのような方々の善意に過度に頼るのではなく、謝礼を支払うなど必要なところには予算をつけて有用な税金の使い方をしてもらいたいと思います。

特に、学校の開放などでは教職員の負担も一定発生しうるものだと思うが、過剰な負担を強いることのないよう、十分な配慮が必要なものと考えています。

また、特定の世代が利用する施策に税金を使うことは、世代間の対立や格差とも深く関係するが、子ども関連政策は受益者負担の原則とはなじまず、子どもを育む社会全体が受益者であるという認識が、市民と共有されることが望ましいと考えます。

【市の考え方①】

学校開放での教職員の負担については、以前は担っていました学校体育施設開放運営委員会の運営委員長や事務担当を平成31年度（2019年度）から教職員が担うことがないようにルールを決め、各運営委員会に周知させていただいています。これからも過剰な負担を強いることがないように、また、現在もなお教職員への負担が多い学校につきましては、十分な配慮を行うようにいたします。

令和6年度（2024年度）より開始しました「午前7時からの小学校見守り事業」は、豊中市が掲げる「子育てしやすさNo.1」の取り組みの一つであり、こども園等が始まる時間と同じ時間から校内での朝の見守り体制を整えることで、就労等や子育ても充実できるようにすることを目的としています。本事業は、学校ではなく市教育委員会において実施するものであり、学校へ負担が生じることが無いよう最大限配慮しています。

また、放課後等の児童の居場所づくり事業は、教職員の負担を最小限に抑えるため、事業者への委託により実施しています。

本市では、子育てにかかる不安や負担を軽減するため、保護者だけが子育てをするのではなく、社会全体で家庭を支える「子育ての社会化」を進めています。それぞれの家庭に合わせたサービスを充実させることで、保護者が、時間的、精神的なゆとりを持って子どもと向き合い、安心して子育てができるようにしたいと考えています。

【市民意見②】

●子育て支援サービスについて

市内在住で、0歳児を育てる親として、基本的なサービスの充実度に満足しています。

【市の考え方②】

本市においては、妊娠前から学童期にいたるまで、ライフステージごとにニーズに応じた相談をお受けするとともに、乳幼児健診や各種講座の実施、子育て情報の発信など包括的なサポートを実施しています。また、令和5年（2023年）9月より、「子育てしやすさNo.1」をめざし、家事育児支援等の子育て支援サービスの強化など、こども政策の充実・強化に向けた取組みを進めています。今後も引き続き、妊娠・出産・子育て子育てを全力でサポートしてまいります。

【市民意見③】

●交通安全について

市内の道路標識や道路上の線が、劣化したり消えかかっていたりしているところをよく見かけます。ドライバーが標識や標示を見落とすことにより、事故につながる恐れがあるため、速やかな補修が必要であると思います。各部局や府などが連携しながら、安心・安全なまちづくりに取り組んでもらいたいです。

【市の考え方③】

交通政策課では「豊中市通学路交通安全プログラム」を通じて、各部局や府、警察、教育委員会および学校等と連携し、定期的な通学路の点検および補修等の安全対策に取り組んでいるところです。通学路以外の道路標識や路面標示の劣化についても、豊中市公式LINE等で通報いただいた場合など、各部局や警察と協力し、安全対策の一環として更新をおこなっています。今後も関係機関と連携し、安心・安全なまちづくりに取り組んでまいります。

Ⅶ. 学校を拠点とした放課後の子どもの居場所づくりの充実

【市民意見④】

●放課後こどもクラブについて

第二子以降の育児休業中、上のきょうだいを学童保育に通わせられるようにしてほしいです。赤ちゃんのお世話のための育児休暇であり、上のきょうだいのお世話まで手が回らないのが現状。遊び方も家の中では限界があるが、赤ちゃん連れではどこにも行けずお手上げ状態です。

【市の考え方④】

これまで皆様からいただいたご意見などをもとに検討を行い、令和7年(2025年)4月入会より、育児休業中の場合でも入会できるよう、入会要件を見直しています。

XII. 豊中市の子育て環境の現状

【市民意見⑤】

●子育てと仕事の両立の推進について

就学前児童の比率・人数が多い寺内地区に、2つしか保育所がなく厳しい状況だと考えます。てらうちこども園が改築されたので、クラス数を調整するなど、より多くの保護者が仕事と育児の両立ができるようにしてもらいたいです。

【市の考え方⑤】

本市では、「公立こども園再整備計画（前期）」に基づき、てらうちこども園は大規模改修を行い、令和6年度（2024年度）から0歳児～5歳児を受け入れる施設として、乳児の入園ニーズに対応するとともに、様々な家庭環境や困難を抱える乳幼児の支援などを欠かすことのできないサービスの受け皿の役割を担っています。今後も公立こども園の役割や適正配置について検討します。

また、増加する保育ニーズに対応するため、民間保育所等の新規整備を進めており、寺内小学校区の近隣においては、令和2年（2020年）4月に「京進のほいくえんHOPPA服部緑地」が開園しています。その後、令和3年度（2021年度）及び令和6年度（2024年度）に寺内小学校区を含めた整備地域で保育所等の設置・運営事業者を募集しましたが、寺内小学校区では応募がなく、保育所等の整備には至りませんでした。

今後については、市域全域においてさらなる保育ニーズの増加を見込んでいるため、寺内小学校区周辺においても、引き続き、新規整備を含め多様な保育定員確保方策を推進し、保育定員枠を拡充していきます。